

人生は行動を待っている

—季刊誌読後感想—

菅原 聡子

季刊誌の編集をありがとうございました。

「CL教育研究会に読後メール」とおつきく書いたメモが月曜日から、貼ったままです。今日で5日目です。

実は、『春の号』を送って頂いた時も、読後メールを送信しようと大きなメモを貼ったままズルズル引き延ばし、結局は書かずじまいでした。後味のわる～いことをしてしまいました。

今回も送信しないと読後メールを書かないことが習慣になってしまう。更に拡大すると、私はCL以外でも、時間と労力をかけて編集して下さった方々に感謝を表さない『人』になってしまう。これはまずい。

以前なら、季刊誌を拝読したあとは、頭の中に感想文がどこからかスラスラ届き、それを入力して送信すれば良かったのです。季刊誌を読んで満足しているのに、感想文が受信出来ない頭になっています。『春の号』からそう感じています。

今回の季刊誌冒頭の『キムさん』の本を書くのが夢なのに行動しないで自分の立場を説明しているのと同じですね。

キムさんから、水泳教室で観察したことを思い出しました。水泳教室の初心者コースに行ったときの事です。

先生の指導どおりにしてできた人とできない人ではどんどん差が出て来ます。出来ない人は浮くことも出来ず次に進めません。進んだ人は足をバタバタしてプールの向こう側に移動を始めたりしています。浮くことも出来ない人は、先生が別についてプールの端に掴まったままです。

出来ない人を観察すると立ってしゃべってばかりいます。

出来ない理由と思われることをしゃべっているんです。

出来た人は、先生に「さあこれをしてみましょう」と手本を見せてもらおうとドキドキしながらも、思いきって、エイッと床から足を離し、両手を伸ばし、顔を水につけ、体を預け、浮き、バタバタ足を動かします。前に進みます。目的の行動をしたから前に少しでも泳げたのです。出来ない人はしゃべっていました。言い訳をしてました。



CLで教えて頂くことは、他所から得られないアドバイスです。豊かさと、清潔さが伝わってきます。

「なかたかなえさん」の就活日誌も朝顔の観察のように成長を見守る楽しみがあります。見守る楽しみだなんて尊大過ぎる書き方です。未熟で発芽さえしていないのは私なのにとわかっています。

貴い季刊誌の編集をありがとうございます。

昨日、知人の法律相談に付き添う機会がありました。

法テラスのお当番の弁護士さんが、盛岡市の女性の方で、とっても優しい方でした。僭越としましたが、女性弁護士さんに代理人になって頂き、市に書類を提出したら良いのではと、突然、閃いて提案してみました。三万円位かかるそうですが、知人も『そうして貰えるなら助かります。お願いしたい』と話がまとまりました。

知人に対する市役所からの弱いものイジメというか、横暴に対し、弁護士さんが市の主張には法的な

根拠がないと弁明書を提出して下さることになりました。とってもいい弁護士さんで、30分で話がまとまり、一気にことが進んだと知人にも喜んでもらえました。

信仰のある人なら『神慮』と言うのだろうなと見ていて思いました。これも知人が『行動』したから解決に向かい前進できたのです。彼女は悶々と悩み、私が『弁護士さんに相談に行きましょう』とお誘いした時、初めてのことで嫌だと思ったそうです。けれど、エイツと行動したから、良い方向に進めたのですね。本当に「人生は行動を待っている」と思いました。CLのお蔭です。ありがとうございました。

編集室から：読后感想を書かれるまでいろいろな事情やその方の立場があっても、出来上がったお便りをいただく側は編集のし甲斐と励ましをいただくことになり、有り難い一言に尽きます。

頭の中がごちゃごちゃしてても、気になって気分が落ち込むようでも、受け入れたくない事情でも、CL法則の「行動するか、しないか」、「常に準備されている『次すること』に向かうだけ」はほんとうに日々助けてくれますね。

 [目次へ戻る](#)